

里地里山の保全・活用の取組における課題と技術的方策等

分類	(地域レベルでの取組基盤の整備)地域の自発的取組を促す支援体制の強化
手法名	地域の実践力を高める技術
主体	いわて地域づくり支援センター
背景 (地域の課題)	里地里山は、農山漁村における人々の生業と暮らしの営みを通じて形成されてきた環境である。その再生のためには、地域コミュニティと自治能力の再生により地域づくりを進めることが重要である。
手法/方策の詳細	<p>「いわて地域づくり支援センター」では、「地域づくりとは実践力を高めること」という考えのもと、動機付け、目標設定、体制づくり、実行と検証、のステップで進めている。</p> <p>実践力とは、地域住民が共通の目標を協同で達成する力。実践力は実践を通じてしか高められないので、動機付けの段階から、協同での地域点検など皆が参加しやすいワークショップから始める。地域点検でできたものを、誰が何から実践するか、その道すじをつける工夫をしている。</p> <p>①動機付け 最初に、地域点検の作業を行う。地域住民がよそ者とともに地域内を改めて歩き、地域にあるものとその意味を確認し、地域の現状や歴史を確認・共有した上で、これからについて話しあう。 なるべく多くの住民が参加してこの作業を行うことで、参加した住民1人1人が地域の現状を知り、問題意識を持つことができ、地域の課題を認識し、自分がその課題を解決するのだという当事者意識を持つことができる。</p> <p>②目標設定・行動計画づくり 次に、地域の目標設定や具体的な行動計画づくりを行う。 上記の作業を経て明らかになった地域の課題をもとに、その解決策となる実践テーマを皆で列挙する。たくさんの実践テーマが出てくるので、これを「重要性」「実現可能性」「こだわり度」で評価し皆で判定をつける。「だれが」「いつまでに」についても意見交換する。</p> <p>③試行、PDCAサイクルでの深化 上記の実践テーマのうち、優先度の高いもので、出来ことから始めていく。 最初から完全な計画をつくるのではなく、PDCAサイクルで計画を練り直し、展開していく。その過程で参加者も増やしていくことができる。</p> <p>④体制づくり 試行的な活動を行って今後の地域づくりの方向性が見えてきたら、活動を継続的に推進するための組織体制を考える。活動のための新たな組織を作るべきか、既存の自治会活動等の範囲でやっていけるか、また、活動の進行管理と連絡調整(いわゆる事務局)を誰がやるか、等を話し合い、活動を進めていく。</p> <p>運営のポイントは、プロセスを重視すること、一部の積極的な人だけで走りすぎず、できるだけ多くの人に関わってもらうような工夫をすること、そのための話し合いの場をこまめに設け、協議を経て進めることである。</p>
手法・技術的視点	集落点検や地域資源調査をして出てきた素材をもとに、これから取り組みたいことを自由に出し合い、それを「重要度」「実現可能性」「こだわり度」の視点で評価し、実践テーマを絞り込む。
	<pre> graph TD subgraph Motivation [動機付け] A[問題意識] --> B[課題意識] B --> C[当事者意識] end subgraph GoalSetting [目標設定と体制作り] D[体制づくり] --> E[目標設定] end subgraph Practice [実践] F[役割分担] --> G[実行] end C --> E E --> G G --> H[達成感] H --> E </pre>
参考資料	里なび研修会in山形 岩手大学教授、いわて地域づくり支援センター 代表 広田純一